



TICAD IV・NGO ネットワーク

TICAD IV・NGO(TNnet)ネットワークは、2008年5月に横浜で開催される第四回アフリカ開発会議(TICAD IV)に向けて、TICADのプロセスに於ける、公式かつ活発な市民社会の参加を実現すべく、2007年3月に発足したNGOネットワークです。

TICAD IV・NGO ネットワークの目標

TNnetは、2008年5月に横浜で開催される第四回アフリカ開発会議(TICAD IV)に向けて、日本のNGO間の情報共有や連絡調整を行い、TICAD IVへ政策的に働きかけを行うことを目的に発足しました。現在、アフリカ関係の日本のNGO36団体が加盟しており、外務省との定期協議会、シンポジウム、イベント開催等を通して、TICADに市民社会の声を反映させることを目標に活動しています。TNnetは、TICAD共催者である外務省との定期協議会、日本の市民社会と共にシンポジウムやその他のイベント、またアフリカ外交団や他のTICAD共催者とのミーティングなどの開催を、主な活動としています。これら全ての活動は、アフリカ市民社会との深い協力関係のもとに行われています。設立当時から、TNnetは徐々にその規模を増やし、今ではアフリカと日本の市民社会やNGOの橋渡し役としてなくてはならない存在となりました。今や、TNnetはアフリカ市民社会の声を日本に届けるという役割に留まらず、TICADの情報をアフリカの市民社会に伝えるという役割を担っています。TNnetは、日本とアフリカの対等で安定した相互関係の地盤作りのために、日本のアフリカに対する短期及び長期的な、草の根レベルに届くより良い開発援助を奨めることを目標とし、日々活動しています。

TNnetの目標は、TICADに市民社会の声を反映させることです。そのために、私たちは以下の3点が重要であると考えます。

1. アフリカが真のオーナーとなる TICAD へ
2. 市民参加の TICAD へ
3. 人々(people)を向いた TICAD へ

これらを実現するため、TNnetは、情報共有を促進し、アフリカ市民社会やメンバーNGO、関係機関との連携に基づいた政策的働きかけを行い、またアフリカ理解促進に利する各種イベントに参加しています。

連絡先

TNnet 事務局: 特定非営利活動法人 TICAD 市民社会フォーラム

事務所所在地: 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-21-1 早大西早稲田ビル 7F プロジェクト室 613-6 号室
早稲田大学 アジア太平洋センター 気付

電話/Fax: 03-5286-8261

メール: TNnet_info@ticad-csf.net

ホームページ: <http://www.ticad-csf.net/TNnet/>

TNnet 加盟団体 43 団体

あしなが育英会、アデオジャパン、(特活)アフリカ地域開発市民の会(CanDo)、アフリカと神戸俊平友の会、(特活)アフリカ日本協議会、アフリカ平和再建委員会(ARC)、アフリカ理解プロジェクト、(特活)アフリック・アフリカ、(特活)アワープラネット・ティービー、エイズ孤児支援 NGO・PLAS、NGO DOJYO、NPO 法人えひめグローバルネットワーク、(特活)オックスファム・ジャパン、(特活)草の根援助運動、(財)ケア・インターナショナル ジャパン、財団法人 結核予防会、(特活)国際協力NGO センター(JANIC)、ザ・ダパードファンデーション、(特活)サパ=西アフリカの人達を支援する会、財団法人 ジョイセフ(家族計画国際協力財団)、特定非営利法人スーダン障害者教育支援の会(CAPEDS)、すぺーすアライズ、(特活)TICAD市民社会フォーラム、特定非営利活動法人 DPI 日本会議、(特活)難民を助ける会(AAR JAPAN)、(特活)日本アフリカ親善協会(JAFA)、(特活)日本国際ボランティアセンター(JVC)、(財)日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン)、日本リザルツ、農業・農村開発 NGO 協議会(JANARD)、バオバブの会、(特活)ハンガー・フリー・ワールド、(特活)ピース ウィンズ・ジャパン(PWJ)、特定非営利活動法人 ピースビルダーズ、FAN3-ファンサバー、HOT AFRICA、(特活)ほっとけない 世界のまずしさ、緑のサヘル、NPO 法人 未来構想戦略フォーラム、(特活)横浜 NGO 連絡会、World Clean Project、(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン、わかちあいプロジェクト

過去の活動と今後の活動予定

上記の3点を実現するための TNnet の活動実績及び、今後の活動予定は以下の通りです。

目標	活動	内容の詳細
1. アフリカが真のオーナーとなる TICAD へ	<p>① アフリカ市民社会が TICAD の共催者となることを要求</p> <p>② アフリカ・日本の市民社会が TICAD への提言 (Voices) を作成するためのシンポジウム開催</p> <p>③ 市民社会からの提言を TICAD 地域準備会合にて共有</p> <p>④ TICAD ガボン閣僚会議 (2008 年 3 月) への参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 首相・外務大臣宛に要望書を提出する一方、TICAD 共催者に働きかけを行ったが、第四回に関しては共催が難しい旨最終返答があった。 ➢ ナイロビ(2007 年 9 月)と東京(同年 10 月)で、アフリカとアジアの NGO が、NGO 間の連携を深め、TICAD に向けて提言をまとめるための JICA 主催ワークショップに参加。アフリカと日本の市民社会の提言書 (Voices of African and Japanese Civil Society) が作成され、採択された。 ➢ 2007 年 10 月 27 日、TICAD 共催者の賛同を得て、TICAD IV に向けた各種イベントの最初のものとして、TNnet 主催により国際シンポジウムを開催 (UNDP 共催、於: 国連大学)。13 のアフリカ NGO を含む約 300 人が参加。市民が考えるアフリカ開発や TICAD のあるべき姿をアピールした他、以上の Voices (提言) を発表。新聞各紙で紹介される。 ➢ 2008 年 1 月 18 日、TICAD に興味を持つ日本の NGO を対象とした、ワークショップ「過去と未来の TICAD プロセスと市民社会」開催 ➢ 2008 年 5 月 25 日、アフリカ、日本の市民社会による「People's TICAD ～みんなが参加できるアフリカ開発会議～」を開催。TICAD のため来日するアフリカ NGO と共に、TICAD への提言を発表。市民に広く開かれた場とする。 ➢ 2007-2008 年、TNnet は Voices (提言書) にアフリカの市民社会の声を反映するため、活発に努力を続けている。ワークショップやシンポジウム、2 度に渡る地域準備会合での市民社会セッション、またアフリカ市民社会を対象としたメーリングリストで、100 を超えるアフリカの市民社会がこの提言作成に尽力した。 ➢ ザンビア、チュニジアにおける TICAD 地域準備会合 (2007 年 10 月、11 月) で市民社会セッションを TNnet が主催。Voices に基づいた総括を本会議場で披露。地元メディアなどにも取り上げられる。 ➢ アフリカ市民社会主導のもと、Voices (提言書) をバージョンアップし、同閣僚会議で発表した。(担当: 政策チーム)
2. 市民参加の TICAD へ	<p>① 市民社会が TICAD 本会議へ正式参加することを要求</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ TICAD IV 主催者に対して、TICAD プロセスへの市民社会の正式参加を要求する要望書を、当時の外務大臣宛に提出。(2007 年 9 月 14 日) ➢ TICAD IV 主催者に対して、TICAD IV への市民参加に関する要望書を、外務省アフリカ審議官に提出。(2008 年 2 月 13 日)
3. 人々を向いた TICAD へ	<p>① TICAD 外務省・NGO 定期協議会の開催</p> <p>② 市民に対するアフリカ・キャンペーンの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 上記 2 項目を達成するための働きかけを随時実施。 ➢ TICAD IV に向けたプロセスに関する情報開示と意見交換を実施。 ➢ 「人々を向いた」TICAD と、アフリカ支援に関する議論を実施。(例: アフリカ開発の現状、アカウントビリティと日本の援助政策、アフリカ NGO の開発当事者としての認知の必要性、市民社会との対等なパートナーシップのあるべき姿、等)。 ➢ 日本アフリカ交流年に関する諸イベント参加。特に、アフリカン・フェスタ等の活用 (担当: PR チーム)。TICAD サイドイベントに関する外務省サイドイベント調整委員会との協議会に参加。

主要な活動内容の詳細

- **提言書、“Voices: Recommendations from African and Japanese Civil Society to TICAD IV”の作成:** この提言書は、アフリカと日本の市民社会の活発な取り組みと努力によって完成されました。このようなアフリカと日本の市民社会の連合体による、具体的且つ力強い提言の発表は、TICAD の歴史の中でも画期的な取り組みと言えます。この提言書の枠組みは、2007 年 9 月にケニアのナイロビで行われた JICA 主催のワークショップに於いて、13 のアフリカ市民社会とアジア NGO5 団体(うち日本からは 3 団体)、28 名のケニア NGO の代表者、そしてケニアで活動する日本の NGO 代表者 10 名によって作成されました。この草案は、同年 10 月に東京で行われた JICA 主催のワークショップで、アフリカの NGO14 団体、アジア NGO1 団体、日本の NGO 代表者 58 名の中で、更に議論が深められ、Voices(提言書)という形にまとめられました。

この提言書は、2007 年 10 月に開催された TNnet 主催のシンポジウムで、約 300 名の参加者の前で発表されました。また、同 10 月に行われたザンビアでの地域準備会合に於ける市民社会セッションでは、その内容が共有され、更なる議論がなされました。それにより内容を深めた提言書は、続く 11 月のチュニジアに於ける地域準備会合でより深い議論を通して改訂され、全体会議の場で発表されました。その後、TNnet はアフリカのパートナーと柔軟且つ活発なコミュニケーションを取りながら、提言書の内容について協議を続けました。

そして、今こうして、100 を越えるアフリカの NGO と、TNnet に加盟する団体の手で作り上げられた提言書を発表できることを光榮に思います。
- **2007 年 10 月 27 日、市民社会シンポジウム「市民が求めるアフリカ開発とは～国連ミレニアム開発目標達成のために TICAD ができること～」主催:** 10 月 27 日に、TNnet は UNDP の共催のもと、TICAD IV にむけた国際シンポジウム「市民が求めるアフリカ開発とは～国連ミレニアム開発目標達成のために TICAD ができること～」を UN ハウスにて開催しました。このシンポジウムは、外務省、JICA、世界銀行、毎日新聞、朝日新聞などから広く後援されました。シンポジウムでは、外務副大臣である宇野修氏の挨拶に続き、アフリカ・日本市民社会の代表によるプレゼンテーションが行われ、提言書である「Voices of African and Japanese Civil Society towards TICAD IV」を出席者と共有しました。この中では、ミレニアム開発目標の達成のために、アフリカ開発に於ける市民社会参加の重要性が強調されています。TICAD 共催者を代表して目賀田周一郎氏(前外務省アフリカ審議官)、村田修一氏(UNDP 駐日代表)、在京アフリカ外交団長のエリー・エリクンダ・エリネー・ムタンゴ氏、UNHCR アフリカ局長マージョン・カマラ氏がコメントを寄せ、会場には TICAD 共催者やアフリカ外交団をはじめ、約 300 名が参加しました。
- **2007 年 10 月 30 日 31 日、ザンビア TICAD 地域準備会合に於ける市民社会セッション:** 10 月 30、31 日にザンビアで行われた TICAD 地域準備会合(南東部地域)において、TNnet が市民社会セッションを開催しました。同セッションでは、TICAD プロセス、経済成長・投資・貿易、人間の安全保障、気候変動と環境について、市民社会の視点から議論が行われました。本会議には TNnet 代表 2 名と現地で活動する日本の NGO 3 名、ザンビア以外のアフリカ市民社会代表 5 名(ケニア 1、ジンバブエ 2、マダガスカル 1、モーリシャス 1)およびザンビア市民社会代表 12 名が出席し、政府代表の発表に続いて市民社会セッションがまとめた提言を 15 分にわたり発表しました。報告後、議長の小田野展文特命全権大使(TICAD IV 担当)より、市民社会は今後とも開発において大きな役割を担うであろうという意味の発言がありました。なお、11 月 3 日の現地新聞 Post 紙は「TICAD はもっとオープンに議論されるべきだ」との見出しで「TICAD に市民社会を参加させるべき」との私たちの主張を取り上げました。このようなセッションを開き、主張を TICAD の本会議で共有するという事は、14 年の TICAD の歴史の中でも特筆すべき有意義な取り組みであったと言えます。
- **2007 年 11 月 21 日、22 日、チュニジア TICAD 地域準備会合に於ける市民社会セッション:** 10 月 21、22 日にチュニジアで行われた TICAD 地域準備会合(北西・中部地域)において、TNnet が市民社会セッションを開催しました。10 月 30、31 日のザンビア地域準備会合に続いて、TNnet としては 2 回目の市民社会セッション主催です。同セッションでは、10 月 27 日の TNnet 主催シンポジウムで表明された「Voices of African and Japanese Civil Society towards TICAD IV」、および 1 日目の本会議で話された TICAD Watch Process など、いくつかのキーワードを基に、市民社会の具体的な参加形態に関して市民社会からの提言をまとめました。本会議には TNnet 代表 2 名、北西部アフリカ市民社会代表 5 名(チュニジア 1 名、カメルーン 1 名、セネガル 1 名、ナイジェリア 1 名、ベナン 1 名)が出席、政府代表の発表に続いて市民社会セッションがまとめた提言を最終日の全体会議の場で発表しました。

- 3月20日、21日:ガボン TICAD 閣僚級準備会合:** 3月20日、21日にガボンで行われた TICAD 閣僚級準備会合に、アフリカ全地域から6団体、日本の NGO3 団体、また多くのガボンの市民社会が、TICAD IV で発表される重要な文書の1つである「横浜宣言」の最終ドラフトに対し提言を行うべく出席しました。この閣僚級会合に先駆けた3月19日に、これらの参加団体は、ガボンの活発な市民社会の20以上の団体と共に準備会合を開催しました。“Voices”とその他の政策文書の内容の確認をし、また「アフリカの人々のために、TICAD を成果主義な取り組みになるよう働きかけよう」という強い意志を再確認しました。同準備会合の成果を活かし、これらの市民社会は「横浜宣言」のドラフトを分析し、「TICAD は MDGsの達成や、アフリカに於ける気候変動による悪影響への対処、民主化の促進のために具体的な対策を表明するよう働きかけよう」という強い主張を含めた、批判的意見を発表しました。市民社会は地域準備会合の公式な参加者とされませんでした。この準備会合本会議での発表は、閣僚級会合の参加者へ重要なメッセージを伝えました。この市民社会による積極的な活動は、NHK、朝日新聞、その他の現地や国際的なメディアで取り上げられました。
- 4月23日:「横浜宣言」および「行動計画」への緊急要望提出:** TICAD IV で発表される予定の「横浜宣言」と「行動計画」の中で改善されるべき点が明らかとなったことを受け、TNnet と 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムは共同で緊急要望を外務省に提出しました。特に「横浜宣言」では、これまでの TICAD 地域準備会合で明記されていた、「MDGsの達成」が前文から削除されており、「民主化」においては議題からも削除されていました。また、市民社会の参画についても触れられていませんでした。緊急要望では、これらがアフリカの人々のための開発を実現するために不可欠な要素であり、「横浜宣言」の中で触れられるべきであるとの主張のもと、より具体的な問題点の指摘とそれに対する改善策の提案を行いました。また、「行動計画」に関しては、経済成長・MDGsの達成・気候変動という3分野の中で、さらに項目別に具体的な行動目標などを示す対案を提出しました。

これから予定されている活動

- People's TICAD～みんなが参加できるアフリカ開発会議～:5月25日(日)14:00～16:00 於 神奈川県民ホール**
TICAD IV を目前に控えた5月25日、「People's TICAD」を開催いたします。TICAD IV のために来日するアフリカ NGO が、TNnet と共に提言を発表し、TICAD 共催者がそれに対する意見を述べます。また、有識者やタレント、アフリカエッセイコンテスト入賞者の方々をパネリストに迎え、アフリカに関心のある多くの市民が参加して、ざっくばらんにアフリカの将来について語り合う機会となります。
- TICAD IV 市民社会セッション:「アフリカ開発のための市民社会との対話・アフリカ開発の革新的取り組み」:5月28日(水)14:00～17:00 於 パシフィコ横浜**
TICAD IV 本番の初日、会場であるパシフィコ横浜で、市民社会セッションを行います【TNnet 主催】。これは TICAD IV の正式プログラムとなっており、市民社会セッションでは、アフリカ NGO と TNnet による Voices(提言)の発表と、政府・TICAD 共催者との対話、及び様々なアクターからのスピーチを予定しています。この場を活用し、多くの各国首脳や国際機関の代表者に向け市民社会からの声を届けることを目指します。

アフリカ・アジアの協力団体

アフリカの協力団体:

- アフリカ市民委員会 (C-CfA)** 17 団体の国別代表、および4団体のアクター別代表(計21カ国)から成る NGO 連合。

 - **ベナン:** Réseau Glegbenu de Social Watch Bénin, **ボツワナ:** Botswana Council of NGOs (BOCONGO), **カメルーン:** Association pour la défense des consommateurs (APDC), **コートジボワール:** Network Africa Asia (N2A), **エチオピア:** Christian Relief and Development Association (CRDA), The Inter-African Committee on Traditional Practices (IAC), **ガーナ:** African Development Programme (ADP), **ケニア:** G-CAP Kenya, **マダガスカル:** Youth Network on MDG, **マラウイ:** Malawi Economic Justice Network (MEJN), **マリ:** Conseil de Concertation et d'Appui aux ONG (CCA-ORG), **モーリシャス:** Mauritius Council of Social Service (MACOSS), **モザンビーク:** G-20, **ナイジェリア:** Pro-Poor Governance Network, **セネガル:** Conseil des Organisations Non Gouvernementales d'Appui au Développement (CONGAD), Réseau des Organisations Paysannes et de Producteurs Agricoles de l'Afrique de l'Ouest (ROPPA), **シエラレオネ:** Civil Society Alternative Process of Sierra Leone (CSAP-SL), **南アフリカ:** Treatment Action Campaign (TAC), **タンザニア:** MVIWATA, **ザンビア:** PELUM Association, **ジンバブウェ:** African Forum and Network on Debt and Development (AFRODAD).

* Observer: **ウガンダ:** Hoima Environmental Project (HEP)
- JICA 主催ワークショップの参加団体、TICAD 地域準備会合・閣僚級準備会合等の参加団体(C-CfA を除く)**

- カメルーン: Federation D'Afrique Centrale des Associations des Personnes Handicapees & UNAPHAC (Union Nationale des Associations et Institutions de et pour personnes handicapées du Cameroun), エチオピア: Gudina Tumsa Foundation (GTF), ガボン: Le Réseau Gabonais des personnes vivant avec le VIH/Sida, ケニア: Agha Khan Foundation, CARPA, Christian Partners for Development, Data National Planned Federation, Education for Life Institute, Impact Alliance, Institute of Management in Development, International Forum for Rural Transport and Development Africa, Kendren, Kenya AIDS NGOs Consortium (Kanco), Osienala, Oxfam GB, PELUM Kenya, The Greenbelt Movement, World Vision Africa Region, WIFIP マダガスカル: Youth MDGs, Mauritius: MACOSS, モザンビーク: Justica Ambiental, ナイジェリア: Africa Public Health Rights Alliance, ルワンダ: Association Rwandaise des Travailleurs Chrétiens Section Feminins (ARTC-F), セネガル: African Civil Society Coalition on HIV/AIDS, ENDA-Energy, ENDA-TM, 南アフリカ: ACCORD-African Centre for the Constructive Resolution of Disputes, チュニジア: Tunisian Mothers' Association (ATM), ウガンダ: International Forum for Rural Transport and Development Africa, ザンビア: Kara Counselling and Training Trust, NGOCC, JCTR, SACCORD, Women for change, ZLA, ジンバブウェ: Southern African Federation of Disabled Persons (SAFOD), NANGO, パン・アフリカ: GCAP Africa, World Alliance for Citizen Participation (CIVICUS)

アジアの協力団体:

- **JICA** 主催ワークショップへの参加者: バングラデシュ: BURO Bangladesh, フィリピン: G-CAP Asia/ Social Watch Philippines